

令和7年度第1回伝国の杜運営協議会議事録

○ 日時 令和7年7月9日（水）午後3時～午後5時

○ 場所 伝国の杜 小会議室

○出席者

（委員） 9名

倉田 哲朗 土屋 一雄 後藤 亜矢子 新井 千香代 鈴木 和賀子
近藤 里美 永井 学 高野 正雄 山村 洋子

（事務局） 7名

曾根 伸之（理事長兼博物館長） 渡部 洋己（常務理事兼事務局長）
花田 美穂（学芸担当主査） 阿部 哲人（主査(学芸員)） 安部 理絵（主査）
寒河江 大輔（総務担当主査） 小松 史織（主事） 菅原 詩織（主事）

1 開会

2 委嘱状交付

3 理事長あいさつ

只今委嘱状を交付させていただいたとおり、伝国の杜運営協議会の委員として改めて2年間どうぞよろしく申し上げます。

伝国の杜は、平成13年の開館から数え四半世紀となる。昨年度は、常設展示室の来館者が累計200万人を達成するなど、今後の歴史に向けて励みになる出来事もあり、今後も更なる発展に向かっていけるように努めていきたい。

本日は、令和6年度の事業概要と令和7年度の事業計画についてご説明するが、運営全般について皆様からのご意見をいただけたらと思う。令和6年度の施設利用状況は、博物館は体験学習室と小会議室等の貸館利用を含めて、107,000人にご利用いただき、そのうち企画展示については、一昨年度を4,300人上回る43,056人来館いただいた。加えて、近隣の上杉城史苑や児童会館と共に施設連携企画等も行った。また置賜文化ホールは、約35,000人の利用があり、それぞれの公演が成功した結果である。今年度は、企画展「藍のものがたり、紅花のものがたり」を7月5日から8月いっぱいまで開催している。これに先立ち、4月19日から58日間、特別展「上杉家の御殿」を開催した。米沢城と3つの藩邸、そして今年再建100年を迎えた上杉伯爵邸の当時の様子や人々の生活の様子を絵図から解き明かすことを

テーマに開催し、約12,800人の来場があった。ホールでは、7月13日に子どもから大人まで楽しめる「ヒネモス～奇想天外おもちゃの楽隊～」を開催予定である。

また、米沢市が夏から秋にかけて当館所蔵の国宝「上杉本洛中洛外図屏風」の修理を実施することとなっており、昨日、無事搬出作業を完了した。それに伴い、市ではガバメントクラウドファンディングを実施するが、この機会に全国の方にご協力いただくとともに、上杉本洛中洛外図屏風、ひいては上杉家の歴史を身近に感じ、米沢を訪れる機会となって欲しい。

今後とも入館者数や施設利用者数が目標を達成できるよう、各事業の内容の充実はもちろん、関係各所との連携や情報共有、各種メディアの活用を行いながらニーズに合わせた魅力を発信していきたいと思う。今回の企画展からQRコードを利用したネット上でのアンケートも導入した。皆様から頂いたご意見、ご助言を参考にしながら今後も改善をしていく。本日限られた時間の中ではあるが、どうぞよろしく願います。

3 自己紹介並びに会長及び副会長の選出

全員一致で会長に高野委員を、副会長に永井委員を選出した

会長あいさつ

僭越ではございますが、皆様のご協力をいただきながら、委員の皆様、来館される方々の気持ちを事務局に届け、運営等に寄与させていただきたいと思っておりますので、どうぞご確認よろしく願います。

4 情報公開及び個人情報の取り扱い

事務局より、本運営協議会の会議及び議事録は、原則公開としたい旨を提案し、了承を得た。また、個人情報取り扱いについても同意を得た。

5 運営協議会の位置付けと主な活動

概要を事務局から説明。

6 報告及び意見交換

(1) 令和6年度事業概要及び令和7年度事業計画

概略を事務局から説明。

(2) 伝国の杜の事業又は運営全般に対する意見等

(委員) 体験学習室やワークショップ、最近の利用者数や運用状況を教えて欲しい。

(事務局) 体験学習室の利用者数の変遷について、令和5年度から令和6年度にかけて、倍に近く利用者数が伸びている。常設のプレイショップについても、コロナ禍以降回復傾向にあるが、個人利用より、放課後等デイサービスや福祉施設などの団体利用が多い。学校利用の団体は減少しているが、理由としては、授業カリキュラムの都合上、校外学習の時間を確保することが難しく、移動手段も課題となっているためである。

募集制のワークショップも体験学習室で行っているが、コロナ禍以降は定員を減少して募集している。最近は大人向けプログラムが人気で、定員になるまで応募が寄せられているが、満員になることが多い。学校利用に関しては学校、教員と相談していく必要がある。ミュージアムスクールや出前授業も展開しているが、洛中洛外図屏風の複製や昔の道具を利用した出前授業は、毎年活用の実績がある。少子化の背景もあり、難しい点もあるが今後は、中学校、高校にも当館の学校利用案内をし、学校側と打合せを行っていく。また、高齢者のリピーターも沢山居るので、そちらのニーズに対応した取り組みも併せて執り行っていく。

(委員) 伝国の杜の学芸員には学校の資料室等にある資料の分類や整理について指導協力いただいているほか、探求学習などで出前授業や学校だけでは体験できない学習活動を博物館をとおして行っている。博物館には、様々な魅力的な展示物があるので、もっと多くの学生に興味を持ってもらいたいと思う。

(委員) 「藍のものがたり 紅花のものがたり」の展示では、山形の伝統や草木染の色彩の魅力について知ることができ、とても良い機会となった。生徒達にもぜひ足を運び地元の文化に興味を持つきっかけとなって欲しい。自分の子どもも米沢の探究塾に通い興味のある分野への探究を行っているが、こういった少人数でこそできる取り組みを活用し、博物館の展示について若い世代に知って貰い、リピーターを増やしていきたいと思う。

(委員) 出前授業等でお世話になっているが、博物館自体も、社会科見学や授業の一環などの学校活動で児童が使用する機会が多いように感じる。学生や児童の利用を増やすにあたり、移動手段や移動時間が課題となってくる。博物館から各小中学校に配布しているミュージデュウは、子ども達も興味を持っており、近隣に住んでいる子が徒歩で訪れたり、両親が関心を持って連れてくることが多いので、幅広い世代に知ってもらうことが大事である。

(委員) 社会科見学で地元の施設を訪れる機会は、現在も学校で設けているが、ゆっくり時間をかけて色々な施設を見学する機会は昔と比べると、少なくなったように思う。授業の形態の変化もあると思うが、博物館だけでなく、上杉の城下町としての歴史を子どものうちから学んで欲しい。

最近博物館受付のパーテーションが取り払われ空間も広くなったように感じる。また、駐車場脇の荒れていた椿の垣根とともに枝垂桜が撤去され残念だがすっきりした。

なお、ギャリートークなどで筆記用具を使用する際は、鉛筆のみの指定のはずだが、鉛筆以外の筆記用具を使用する利用者が増えてきているように感じるので、徹底をお願いする。

案内人や、ギャラリートークの手伝いをするサポーターの方がいるが、サポーターとわかりやすいように法被などのユニフォームがあるといいのではないか。

(委員) ホールの事業で入場者数が満席となったのは、山響ユアタウンコンサートのみで、他の事業は半分程度に留まっている。ホール事業のポスターを目にする機会が少ないように感じるので、少しでも入場者数を増やすために、招待や割引など、価格面でも工夫するのはどうか。

(事務局) サポーターのユニフォームに関しては、以前サポーター内で意見もあったが、費用面の問題で実現に至っていなかった。改めて検討をしていく。

(委員) 障がい者協会の役員をしているが、ハンディキャップを持っている人は外出をする機会が少ない。昨年から、障がいを持つ方が定期的集まり、交流を持つイベントを行っているが、博物館のワークショップやギャラリートークに参加することは可能か。

(事務局) 事前にご相談いただければ可能である。

(委員) 今回の展示では、ギャラリートークにとっても感動した。展示内容もコーナーごとにそれぞれの魅力があったので、ぜひ深掘した展覧会を今後も開催して欲しい。ボランティアで高畠の小学校に着物の出前授業を行うことがあるが、教育は、結果がすぐに数字で出るものではないが、とても大事なので、博物館でもぜひ力を入れて欲しい。

SNSに展覧会について投稿したところ、「見て来ました」という反応が何件かあった。VTRは、もう少し短い方が見やすいとの声もあったが、自分はちょうどいいと思っている。「上杉家の御殿」の展示で

もVTRがあったが、音声と映像を使用した展示は、頭に入りやすく、とても良いと思う。博物館全体で音声ガイドを導入して欲しい。博物館では、学会などで研究成果を発表する機会はあるか。

(事務局) 展覧会の成果については、図録が作れるものに関しては図録で残す形を取っている。今回の「藍のものがたり 紅花のものがたり」は、予算の都合上作れず、発表の機会は、この展覧会のみとなるが、展覧会に還元できるような調査研究は、歴史と美術それぞれで継続して行っているテーマもあり、個々の学会で発表する場合もあるが、地域博物館の学芸員としては、展覧会で公開することを第一としている。音声ガイドについては、過去に2回ほど行ったことがあるが、これらは業者にプログラムを作成してもらって、貸し出す形になるので、博物館が単独で行うのはシステム上難しい。現在、常設展示室では、QRコードから外国語対応の展示の解説が読めるシステムを導入しているので、今後、企画展でも同じようにQRコードを導入出来たらと思うが、予算と技術の課題があり、実施には至っていない。

(委員) 展覧会を観覧する際にギャラリートークがあると、そのまま流し見してしまう点も詳細まで丁寧に解説いただけるので、魅力的に感じた。ギャラリートークのある日に来館できなくても、先ほど話題にもあった音声ガイドやQRコードによる解説があるのもっと興味を持つことができると思う。ホールでのコンサートに訪れた際に、入口の紅花のアレンジメントを見つけて、今回の展覧会に気づいた。アレンジメントの他にもポスターや宣伝効果があるものを設置するだけで効果があるのではないか。また、昨日から始まった洛中洛外図屏風修理に伴うクラウドファンディングの経緯について教えて欲しい。

(事務局) 米沢市で洛中洛外図屏風の修理をするにあたり、費用の半分は、国と県の補助金が充てられているが、残りを一般財源から支出することとなるため、厳しい財政状況の中での財源の確保と、クラウドファンディングをとおしてより多くの人々に米沢の文化に興味を持って頂き、来訪に繋がる効果を期待して今回実施に至った。600万円を目標としている。全額修理に充てられるのではなく、ふるさと納税の返礼品を活用する制度のため、返礼品の費用や事務経費等が募集金額の約半分を占めている。返礼品の一部には、博物館のグッズも提供する。

(委員) 米沢市民は地元にふるさと納税はできないが、クラウドファンディングは行えるのか。

(事務局) 制度の詳細を把握していないので後日お知らせする。

(委員) 小学生の頃、自分も置賜地区の文化施設を訪れる校外学習をとおして郷土愛を育んだので、今後も小中学生のそういった歴史や文化に触れる機会を設けて欲しい。

ホール事業の来場者が少ないと寂しく感じる。集客の方法に課題があると思う。展覧会についても、県外の方に「藍のものがたり 紅花のものがたり」の紹介をしたところ、知っている方がおらず、こういった展覧会の情報を得る機会が欲しいとのことだったので、県外への広報、周知に力を入れて欲しい。音声ガイドについては、難しい試みではあるが、展覧会についてより楽しめると思うので今後は是非検討して欲しい。図録も、全ての展覧会となると予算の都合上難しいが、今回の「藍のものがたり 紅花のものがたり」も米沢の素晴らしい歴史文化がたくさん紹介されたものだったので、今後は図録の出ない企画展も何かの形で残していただけたらと思う。

(事務局) ホール事業は、今の広報の仕方では集客が難しいと感じている。伝国の杜だけでなく、置賜3市5町の公共ホールの連絡協議会には、当財団のように自治体が指定管理を行うホールと、民間が管理しているホールがあるのでノウハウを共有しながら協力、連携して対策を行っていく。

(委員) 山響ユアタウンコンサートを2年連続で鑑賞し、また、今年は座の文化伝承館の市民茶会に参加した。仕事で観光客の案内も行うので、今後も、自ら積極的に米沢の文化に触れて学んでいきたい。

利用者を増やすにはDMでの勧誘などの新たな取り組みや周知方法の工夫などを行い、力を入れていく必要がある。

今回、企画展を観覧したが、解説があるととてもわかりやすく、ギャラリートークも作品の理解を深める上で非常にいい時間を過ごせたので、こういった催しはぜひ多くの人に知ってもらい、来館者数の増加にも繋げて行って欲しい。

ここ数年、外国人観光客も多い。地元の方だけでなく、遠方からの観光客も、何度も訪れたいような施設を目指してもらいたい。また、博物館でそういった対応を行っていたら教えていただきたい。

(事務局) 外国人観光客の対応について、音声ガイドや同時通訳は難しく、先ほど紹介した常設展示室のQRコードでは、英語、韓国語、中国語の繁体字、簡体字の4言語が表示可能なので、そちらを読み込んでいただくか、おしよしなガイドで外国語が話せる方がいる場合は案内いただくなど、限られた中ではあるが、対応している。

(3) その他

7 その他

(事務局) 委員の皆様には、展示やホール事業の評価へのご協力をお願いしたい。

8 閉会

以上